

# H F H J N e w s L e t t e r



## 32

2014 July

ハビタット・ジャパン ニュースレター  
第32号 2014年7月発行



活動の現場から

## ハビタット・ジャパンと学生、共に10年

HYB2014 KIZUNAプロジェクト 報告



## ホームリペア支援

本年2月よりホームリペア事業を実施している美里町は、のどかな田園風景が広がる、海岸線のない内陸の自治体です。震災時に津波は到達しませんでしたが、地震のために大きな被害を受けました。津波被害の自治体や被災者に注目が集まる中で、地震による被災地域への関心は薄く、同じ被災地でありながら、内陸部では、行政や支援団体からの支援が届かなかったり不足したりしていました。そのため、損傷したままの家屋で生活を続けている人たちが、今でも少なからず存在しています。そのような方々のうち8世帯を対象としたホームリペア支援の調整が美里町内で現在進行中で、うち4世帯の修繕が完了しています。

### メディアに取り上げられました！

本事業は共同通信社の取材を受け、日本経済新聞や河北新報をはじめとした新聞に「内陸部の震災被害知って」などの見出しで記事が掲載されました。支援が行き届いていない地域や人々に支援を届けるために、ハビタット・ジャパンは活動しています。



熱海さん宅では破損した内壁の修繕や建具の補修、浴室やキッチンの塗装などの作業を、全国から参加した約75名のボランティアが、熱海さんと共に行いました。

自力ではとても修繕できなかったので、ほんとうに助かります。

## Self Build



## セルフ・ビルド支援

5月25日に、岩手県大船渡市三陸町越喜来にて、セルフ・ビルド支援の完成式が行われました。セルフ・ビルド支援とは、被災者が自分で家を建てることを、書類作成、諸手続き、ボランティア派遣などを通じ、ハビタット・ジャパンが一貫してサポートする事業です。

ホームパートナーの佐藤さん（仮名）は「この家が完成したら、91歳になる母親と一緒に、仮設を出て、ここに住むから、いつでも寄ってけらいん（寄ってください）」と言ってくれました。

完成式で佐藤さんに贈られた記念品は、建築作業の様子を記録した写真アルバム。佐藤さんはページをめくりながら、「これは名古屋から来た子だ、コンクリートを打ったな」と言いつつ、ボランティア一人ひとりの顔と、彼らと共に作業した



シーンを思い出しながら、当日の参加者に説明していました。おしゃっす（土地の言葉で「とても恥ずかしがり」の意味）な佐藤さんは、建築を始めた当初は、初対面のボランティアとは口を利くことも少なかったのに、今はこうして自分から声をかけるようになり、自分で家を建てたことから来る自信が仕草に表っていました。以前、部屋の壁のペイントの作業に参加した地元のボランティアのSさんは「ここまで綺麗になるんだ。信じられない」と、内装の仕上げを残すばかりとなった家の見事な出来栄えに驚きながら、自分の参加した作業を思い返していました。



# ハビタット・ジャパンと 学生、共に10年

ハビタット・フォー・ヒューマニティの日本での取り組みは  
**学生支部の設立**から始まったことをご存じですか？  
ハビタットの取り組みに強いシンパシーを持った大学の教員が、  
1996年頃からハビタット・フォー・ヒューマニティを通じて  
学生達と海外住居建築活動(GV: Global Village program)に  
参加したのがきっかけとなり、  
**学生支部(CC: Campus Chapter)**が日本に誕生しました。  
その広がりに呼応して2001年に  
**ハビタット・ジャパン**のオフィスが設立されました。  
若者たちのエネルギーと貧困問題解決のための想いを原動力に、  
ハビタット・ジャパンの学生支部はその後も全国に広がり、  
現在、北は北海道から、南は九州の大分まで、  
**27の大学キャンパス**に学生支部があります。  
学生支部に所属する**約1,500名の学生達**が国内外の住宅問題改善のため、  
日々ボランティア活動を行っています。



## ANSWER

九州

ハビタットAPU 副代表  
**山崎 準姫さん**

成長できる仲間がいる場所です。メンバー一人ひとりの個性があって、それが尊重し合える仲間がいることです。



山本 佑輔さん  
2005年 同志社大学卒業  
キャリア・コンサルタント

## QUESTION

日本全国のCCメンバーに  
聞きました

「あなたにとって  
CCとは？」



## ANSWER

関西

関西JCC 理事長  
**木原 優人さん**

“あつたかい・熱い人々との出会いの場!! CC内、他CC、GVで出会う現地の人々。そういった人々との出会いの場です!!



## ANSWER

中国

Groo've 代表  
**小川 知奈留さん**

バックグラウンドの違う人が集まるので、さまざまな視点から貧困問題を見つめることができます。情報を発信し、受信もする相互受信の場です。



## ANSWER

四国

医技タット 代表  
**早坂 美咲さん**

誰かの命を守れる場所です。自身の被災経験を生かし、四国独自の取り組みである南海トラフの啓発活動に力を入れていきます。



## LIFE after CC - OB・OG インタビュー -

「CCで得たものが  
卒業後どのように  
役立っていますか？」



CC代表として団体の運営を経験したことにより、人の才能を引き出すことや、人と組織のマッチングに興味を持ちました。そういう点では、CCでの経験が現職に繋がっていると言えるかもしれません。また、CCで作った仲間との本音で話せるつながりは、何にも代えられません。



山本 佑輔さん  
2005年 同志社大学卒業  
キャリア・コンサルタント



西谷 加寿香さん  
2010年 関西学院大学卒業  
キャリア・アドバイザー

CCで培った柔軟性が生きています。ディスカッションや会議など、一人ひとりが意見を持っている状況で、お互いの違いを尊重し、「正解」がないことを理解したうえで最良の策と一緒に模索する姿勢はCCで学んだものです。

# 27 大学キャンパスに学生支部

## 約 1500 名の学生が活動中！

(2014年6月現在)

CCで一緒に活動してくれる新しい仲間を  
募集しています！  
お気軽にご連絡ください。

ANSWER

北海道

けんちくん 代表  
山田 恵美子さん

CCに入るきっかけは人それぞれ。ハビタットに興味がある人も、違う理由で入る人もいます。CCは様々な人たちが集まり、一つの事をやる場です。



ANSWER

東北

As One 代表  
上田 格さん

“刺激の場”。自分では思いつかない  
ことや、気づけないことなどを他のCCの  
メンバーを通して知ったり気づいたり  
するからです。



ANSWER

東海

NCB 代表  
滝沢 明日香さん

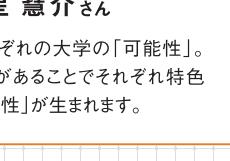
私にとってCCとは、まさに温かいお家  
のような存在です!現地で出会った方  
達だけでなく、同じ志を持った仲間達が  
私を支えてくれたからこそ、素晴らしい  
経験ができたのだと思います。

ANSWER

関東

関東JCC 理事長  
星 慧介さん

CCとはそれぞれの大学の「可能性」。  
多くの支部があることでそれぞれ特色  
のある「可能性」が生まれます。



メッセージ

## -OB・OGの皆さんへ-

ハビタット・ジャパンのキャンパスチャプター(以下CC)で活動経験のある学生達が、全国で毎年数百名、大学を卒業し、社会へ羽ばたいています。一部の学生支部では、OB・OG会などが組織化されています。しかし、残念ながら、ハビタット・ジャパンとしての卒業生ネットワークはまだ存在しません。学生時代にハビタット・ジャパンのCCメンバーとして活躍されたOB・OGの皆さんに、ハビタットの取り組みに改めて参加して頂ける機会を更に広げていきたいと考えています。これからも、現役生のサポートをよろしくお願ひします。そして、ハビタット・ジャパンの国内外での取り組みをご支援いただければ幸いです。

菅原 俊之さん

2011年 明治学院大学卒業  
ITネットワークシステム営業

人を仲介することが多い仕事をしている  
のですが、Global Villageでのチーム・ビ  
ルディングの経験が、そのまま生きています。  
また、CCで身に付けた、固定観念に  
縛られない柔軟な考え方も、日々役に  
立っています。



村上 あずささん

2014年 青山学院大学卒業  
ウェブ・マーケティング

新入社員の私としては、CC代表として  
鍛えた「わかりやすく伝える」という姿勢が  
役立っています。また、指示やタスクを与  
えられた時に、それにただ従うだけではなく、  
自分でも考えるクセがついているのもCC  
のおかげです。



## HYB2014



2014年2月から5月までの3ヶ月間、日本をはじめとするアジア11カ国（バングラデシュ、中国、カンボジア、インド、インドネシア、日本、マレーシア、ネパール、フィリピン、韓国、タイ）が参加し、Habitat Youth Build (HYB: ハビタットユースビルド) 2014が、各国で同時開催されました。今年のHYBは、「Play, Act, Share」のキーワードのもと、80万人以上の学生が住居建築、地域の清掃や募金活動、ワークショップや集会など様々な活動に取り組みました。HYB2014最終日の5月3日には、日本の学生約200名が全国9カ所で募金活動を行ったほか、宮城県東松島市では、CCの現役メンバーである35名の学生とOB・OGが集まり、2日間にわたって復興支援についてのワークショップを行いました。このワークショップには、東北だけでなく、関東や、遠くは四国の愛媛県からも、学生が参加してくれました。国外の活動の一例としては、巨大台風ハイエンで被災し、現在も復旧作業が進められているBohol島で、フィリピンの学生5,000名が、5月3日までに被災者のための住居建築活動をHYB2014の一環として行いました。

さらに、カンボジアで行われた住居建築活動には、アジア各地から1,200名の若者（うち日本からも3名）が参加しました。



## KIZUNA プロジェクト



## KIZUNAプロジェクト 報告

GO!

絆を深め  
成長する旅へ！



2014年3月6日～16日に、第2回KIZUNAプロジェクトを実施しました。このプロジェクトは、震災を経験した学生たちを海外建築ボランティアプログラム(GV: Global Village Program)に送り出し、海外での活動を通じて、自分自身の将来への希望と自信を取り戻す新たなきっかけを提供することが目的です。今回は、東北大大学Campus Chapter (CC) 「As One」に所属する3名をスリランカへ派遣しました。

**KIZUNAスポンサーを募集中です。**  
ご質問やお問い合わせは、  
お気軽にハビタット・ジャパンまで  
お寄せください。

### KIZUNAプロジェクトを体験して

橋詰 太一郎さん



上田 いたる  
格さん



高江 由香さん



海外でなぜボランティアをするのか、なぜ現地の人とのコミュニケーションが大事なのかを、考える機会を得られました。この経験が、頑張れるきっかけに必ずなると感じました。この貴重な経験を無事に楽しく終えられたことを、幸せに思います。

初めてのことばかりでしたが、とても楽しかったです。言葉が通じない方とのコミュニケーション方法に悩み、出した答えは“笑顔”と“元気”でした。ワークを続けていくうちに徐々に現地の方々とも打ち解けて、ここまで心の距離が近づくということに驚いたとともにとても嬉しかったです。

ただワークをこなすよりも、現地の人と積極的にコミュニケーションを取り、交流を深めることで、心のこもった活動になり、ワークにも集中して取り組めることが分かりました。今回得た出会いや結びつきを無駄にしないために、今後自分にできることを行動に移していくたいです。

# TOPICS

HFHJ Newsletter 32

## 写真展報告

ハビタット・ジャパン設立10周年記念イベントの一環として、「世界の家族と家を建てる国際協力」をテーマに、写真展を開催し、JICA地球ひろば（東京市ヶ谷）とJICA横浜ギャラリーで、これまでの海外および国内での住居支援活動を紹介するパネルや写真を展示しました。



また、横浜ギャラリーでは、合わせて展示した学生ボランティアによる写真を通して、ハビタットの活動参加者が見た国際協力と東北復興支援の現場の様子を伝えました。



活動に賛同してくださる方に  
パネルを貸し出しています。  
写真展の開催にご興味のある方がおられましたら、  
お気軽にお問い合わせください。

今月の

## ハビびと

ハビタット・ジャパンで活動する、熱き人々



### 井ノ口 まりこさん

京都外国語大学ハビタット  
卒業生

「フィリピンで家を建てるボランティア活動に興味のある人は、授業後、僕のところまで来てください。」学生時代に恩師から呼びかけられ、同級生の佐野さん（旧姓）と2人でその夏に住居建築ボランティア（GV: Global Village program）に参加したのが、ハビタットとの出会い。1997年の事だった。

世界の問題を憂いてはいても、何かを変えられるほどの力を自分たちは持っていないと思っていたが、その時ハビタットに出会い、学生だからこそ積極的に協力できる活動があることを知った。帰国後すぐに、佐野さんと2人でサークル発足に向けて説明会をすることに。大教室いっぱいの学生が集まつた。井ノ口さんは「本当にやりたいことがみつかった時に、人は思いもよらない集中力と行動力が發揮できるものなのだと、身を持って学生時代に学びました」と振り返る。大学卒業後、ハビタット・ジャパン・オフィスの立ち上げに取り掛かった。パートナーの佐野さんと2人で初代スタッフとして、東京都内に自宅兼オフィスとなるアパートを借り、少しずつ拡大し始めた学生支部「キャンパスチャプター」のサポート業務を始めた。

それからまもなくハビタット・ジャパンから退団し、その後約10年間、ハビタットから離れていたが、2年前に、明治学院大学ハビタットMGU顧問でありハビタット・ジャパン理事長（当時）を務める鍛冶教授から協力の依頼が来た。多忙な毎日を送っていたため迷ったが、恩返しのチャンスだと思えた。

「ハビタットの活動は世界を体験する『きっかけ』にすぎないと見る人もいるが、そのきっかけが巡って来た時に逃さず掴んで、一步踏み出したからこそ、今の自分がある。」そう語る彼女は、今、ハビタット・ジャパンの理事として、ハビタット・ファミリーの絆を繋げ、深めるためにOB・OGとのネットワークづくりを担当している。彼女の新しい挑戦は始まったばかりだ。



2014年3月  
CC卒業  
イベントにて



97年8月 フィリピン・バコロドGVにて

## 編集後記

昨年11月に設立10周年を迎えたハビタット・ジャパンは、今年5月に事務所を市ヶ谷に移転しました。大学が多い市ヶ谷は、緑も豊かで、落ち着いた併まいの素敵な街です。新しい事務所は、外堀通りに面しており、JRや地下鉄の駅にも近く、とても恵まれた環境です。以前よりも広くなり、効率よく作業ができるようになりました。また、給湯室には念願のコーヒーメーカーを置きました。きちんとしたオフィスを借りることができ、喜んでいます。ハビタットのビジョン「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」を実現するために、私たちスタッフも、皆さまのご支援に支えられ、ますます励み、活動してまいります。今後ともご協力くださいますようお願いいたします。（事務局長）